

大池公園さくら再生ワークショップニュース No.6

令和3(2021)年度 第3回ワークショップ
12月18日(土)AM9:30~12:00 大池公園
『さくらの手入れ(肥料をあげよう)』 参加20名

開催しました!

□大池公園(東海市中央町三丁目、面積約24.8ha)は1973年(昭和48年)に緩衝緑地として開園。さくらの名所として毎年春にはソメイヨシノが咲き誇り、最近ではライトアップも行われ花見の名所となっていますが、開園後約50年が経過し、ソメイヨシノの老木化が目立ってきました。
□『大池公園さくら再生事業(50年後に引き継ぐ大池公園のさくら)』は、このソメイヨシノをこの先も楽しめるよう、市民の皆さんと東海市で協働して守り、次世代に引き継いでいくとともに、大池公園のさくらを再生させ、名所としての魅力を更に付加していくことを目指して、令和元年度から実施しています。
□『大池公園さくら再生ワークショップ』は昨年度から始まり、昨年度はソメイヨシノの手入れや再生の計画づくり等3回行いましたが、令和3年度も維持管理作業にも目を向け、継続していますので是非ご参加下さい。

当日の天候は、早朝に雪がちらつきましたが次第に回復し、風は冷たいものの、今回のワークショップも予定通り実施できました。参加者も過去に参加された方ばかりでより和やかな雰囲気となりました。会議室で樹木医さんの「さくらの性質」や「なぜ公園のさくらに施肥が必要か」、「肥料と堆肥を併せて入れる意味」、「大池公園の土の特徴」、「施肥により肥料分と共に酸素も供給されること」等の説明を受けた後、園内へ出て施肥作業に移りました。

まず管理事務所から園路を東へ向かい野球場の西側の植樹帯内のソメイヨシノ16本、続いて駐車場東側植樹帯のウスズミザクラ3本とサトザクラ1本の施肥を行いました。施肥材料は、固形肥料とバーク堆肥を使用し、施肥したサクラにはプレートが付けられました。参加者全員の熱心な作業により予定通りの施肥が出来ました。最後に事務所で感想を話し合い、第4回ワークショップの案内を受け終了となりました。単純作業の連続でお疲れ様でしたが有難うございました。参加者(人):応募市民(12)、樹木医(1)、事務局(4)、東海市(3)

令和3年度ワークショップスケジュール

第1回ワークショップ【2021年10月30日(土)】

済

- 『樹木医の先生とさくらを診て学ぼう』
- ・事業の目的とこれまでの経緯の説明
 - ・さくら豆地知識クイズ
 - ・さくらの元気度調べ
 - ・さくらを守る作業(施肥)の実践

第2回ワークショップ【2021年11月27日(土)】

済

- 『さくらの手入れ(日当りを良くしよう)』
- ・樹木医の先生によるさくらの特徴と剪定の意義の説明
 - ・さくらの枯枝などの不要な枝と隣接木の競合枝の剪定の実践
 - ・衰弱したさくらの剪定方法、さくらと競合する木の伐採の説明

第3回ワークショップ【2021年12月18日(土)】

済

- 『さくらの手入れ(肥料をあげよう)』
- ・樹木医の先生の指導
 - ・元気がなくなっているさくらへの施肥(開花に向けた栄養補給)

第4回ワークショップ【2022年3月19日(土)】

- 『手入れの効果を確認(開花を診て歩こう)』
- ・樹木医の先生とさくらの開花を診て歩き、手入れの効果をみんなで確認して、来年の活動に向けて意見交換

さくらの特徴

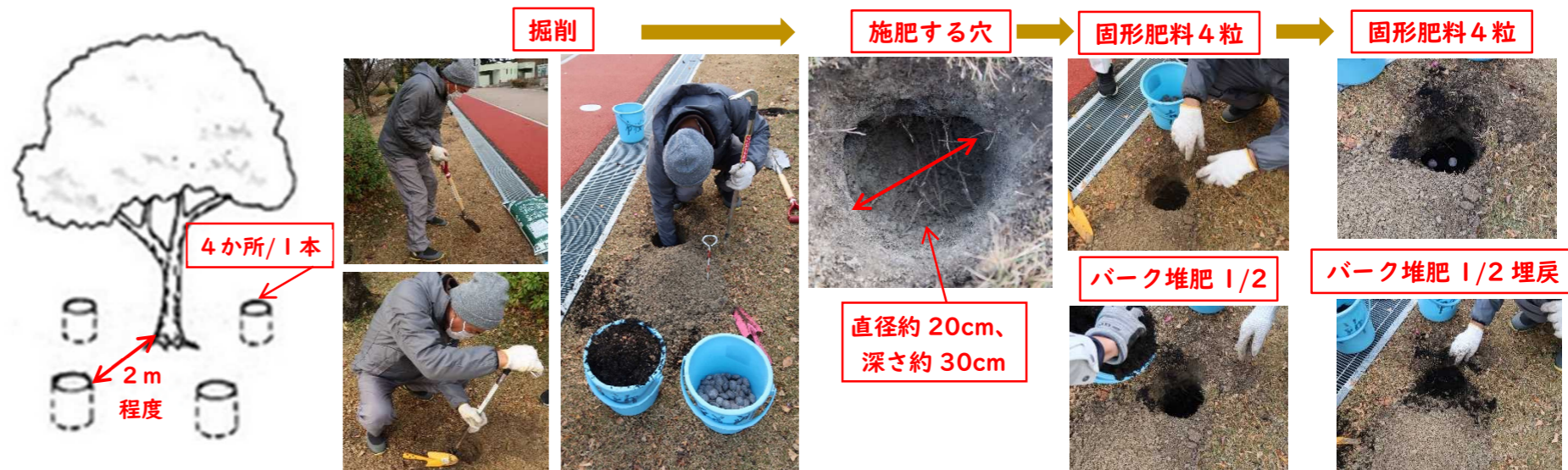
- ① 日当りを好む ② 腐りやすい ③ 病気になり易く、虫も付きやすい ④ 土(土壤)の影響を敏感に受ける=さくらは浅根性で、根が伸びるのは深さ50~60cm程度、土が固い所では30cm程度で、土壤の影響を受け易い。知多半島全体、東海市も土壤は粘土質。

なぜ施肥が必要か

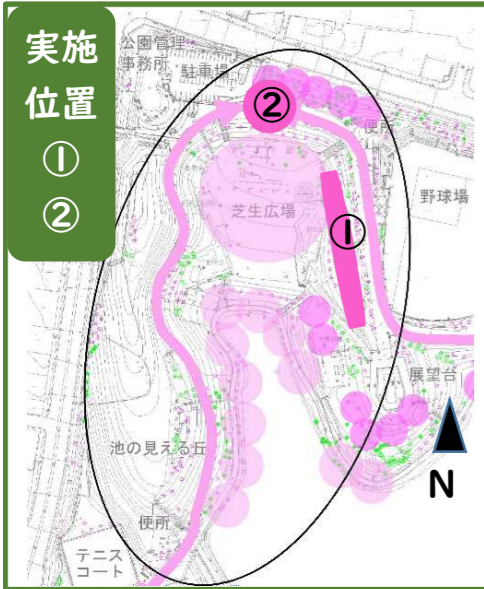
- 野山の樹木には施肥されない。それでも成長するのは落葉が分解して肥料になるから。大池公園など管理された公園では落葉は清掃で除かれてしまうので、肥料分の供給が少なく樹木を健全に成長させるためには施肥の必要がある。樹木は基本的には光合成で光と水と二酸化炭素から養分と酸素を作る。その養分で成長し肥料分は不要だと勘違いしがちだが、ヒトもたんぱく質が必要なように、植物も根から吸収する窒素・リン酸・カリ等のミネラル(無機質)が少量だが必要となる。
- 本日の施肥は、さくらの根元に穴を掘って肥料と堆肥を入れる。堆肥は根を伸び易くする。堆肥中の豊富なバクテリアが根と相性が良いのでここに肥料があると成長する。このことは掘ってみると判る。土が固いと移植ごてでは掘れないし、雨は表面を流れてしまう。雨と空気が一緒に土壌に入り土壌の酸素を交換する。土壌が固いとそれが出来ない。また、夜間は光合成を行わず呼吸だけしているので、酸素を取り入れ二酸化炭素を排出しているため、酸素が大切になる。根は砂層等の酸素が多い所へ伸びる。本日の施肥で肥料と空気が入るので大きな意義がある。

今回実施した施肥の方法

- ① 施肥する穴を掘る <使用機材=スコップ(剣スコ 先端幅20cm弱)、移植ごて、バール等> 場所・数・大きさ=さくらの幹から約2m離れた位置、1本につき4か所、直径約20cm・深さ約30cmの円柱状、太い根のない場所を推測して掘る。小指の太さより細い根は切断しても可。
- ② 固形肥料、バーク堆肥を入れる <使用機材=バーク堆肥を入れる小バケツ> まず、固形肥料4粒を穴の底に入れる⇒バーク堆肥を穴の深さの半分程度まで入れる⇒固形肥料4粒を入れる⇒バーク堆肥をほぼ地表まで埋め戻す⇒土が下がるので掘った土を少し盛りかぶせる(芝生を切り取って穴を掘った場合は表面に芝生を置き押さえ土をかぶせる)⇒残土を処理する



施肥実施位置と作業状況



参加者の作業後の感想

昨年と異なる場所の施肥だった。施肥場所に石があったりして昨年と違った。成果を長い目で見ていきたい。
 昨年も施肥したが、効果が表れるのを楽しみにしている。2人有意義だった。子どもを連れてくればよかった。学校と連携してできると良い。
 作業をやってみると愛着が湧き、今後見に来るのが楽しみ。プレートつけた最後に、裏側に文字を入れたのが楽しかった。
 施肥で元気になればいいが
 土壌状態で何が違うか実感した。
 スコップは普段使わないが楽しかった。
 思ったより体力仕事だったので大変だった。

樹木医さんより

木は上の方ばかりが目が行くが根が最も大切。違う角度でも見てみて下さい。

東海市花と緑の推進課よりお知らせ

市のホームページにワークショップをアップ、過去に放送された新美樹木医の知多メディアスの放送も見る事が可能。

作業状況②



作業状況①



使用資材

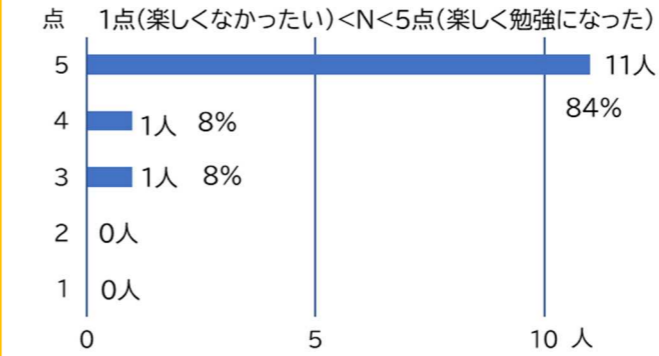


会議室での風景

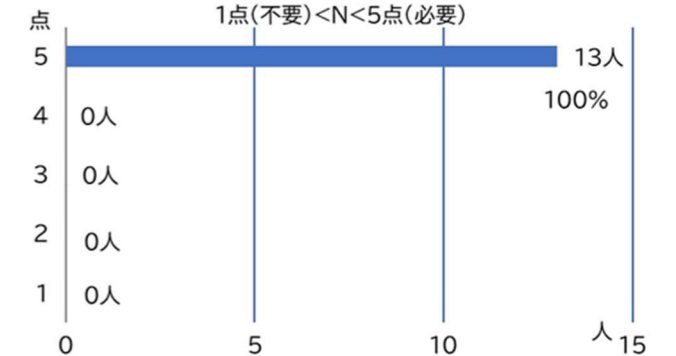


第2回目ワークショップ(11月27日)参加者アンケート結果

1 さくらの手入れを体験してみた感想



2 日当り改善のための剪定・伐採



3 次回から取組みたい活動項目

土壌診断
 木をきったり、くすりをぬったり、ざつそうの木もたくさんきりたいです。また、川の近くの木もきりたいです。
 マタキヲキってみたい。
 さくらの不要なえだをとってさくらのえんめいをしたい。
 子どもも少し参加できるところがとてもよかったです。次回もぜひ何かできたらいいなと思います。
 桜の特徴(今日学んだ4つ)を掲示して、市民のみんなが桜を大切にするようになればと思います。
 雑木の伐採作業をしてシンボルツリーを守ってやりたい。
 競合している木を伐採した後の場所への植樹
 「さくら」の種類によって手入れのちがいがありましたらご教示頂いて、園内の木で具体的に実践したいと思います。
 枯枝を木々の健康状態を確保するために切り落とす事についてよくわかったので、若枝更新のプロセスを知るといいなと思います。(短時間で結果が出るものではないと思うので、時系列の写真などがあると判りやすいのかなと思います。

4 感想・自由意見

家の「さくら」をよく見てみます。剪定や手入れの参考になりました。
 ざつそうがいらなくなるとすぐやりたいです。
 お話しをしていくじゃなくて、だめなところは、やりたいです。
 子供たちにもさくらの剪定をさせてもらいありがとうございました
 さくらのべんきょうになった。
 初めての参加でしたがとても勉強になり楽しかったです。普段歩くときも桜の木の様子を見てみたいと思いました。
 何も物を言わない桜は、いろんな工夫や仕掛けで、たくましく生きていると思った。その工夫や仕掛けができやすい環境をつくる必要があると思った。
 伐採などは早目に行ない、桜の木を強く美しくしてほしい。
 今回、桜のこぶなどの桜の病気などを教えてもらったことによって、今まで、花しか桜は見てこなかったが、木の状態など新しい視点を見つけることができた。
 桜の『木』に対する見方が変わりました。(下の状態・健康など気にしながら見る事ができるようになった)
 とてもわかりやすく、楽しく学ばせて頂きました。ありがとうございます。
 もし、参加メンバーを増やしたい思いがありましたらある程度、当日の飛び込み参加枠を用意頂けると良いかもしれません。(告知拡散はしておくので)

【ワークショップ問合先】東海市都市建設部花と緑の推進課

〒476-8601 東海市中央町一丁目 | 番地 ☎ : 052-603-221 | Email : hanamidori@city.tokai.lg.jp